

## 会 議 録

会議の名称	令和4年度 第1回小牧市市民活動促進委員会				
開催日時	令和4年5月16日（月）午前10時から午前11時50分まで				
開催場所	小牧市役所本庁舎 404会議室				
出席者	<b>【委員】</b> 秦野委員長、三島副委員長、戸成委員、星野委員、竹中委員、伊藤委員、丹羽委員、西村委員、堀尾委員、藤本委員 <b>【事務局】</b> 倉知課長、高柳係長、溝畑				
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否	傍聴定員	5名	傍聴人数	0名
会議次第	<b>【内容】</b> 1 開会 2 議題 (1) 令和3度小牧市市民活動助成金・地域に還元チャレンジ助成金実績報告会について (2) 令和4年度小牧市市民活動助成金・地域に還元チャレンジ助成金企画提案発表会について 3 その他				
問合せ先	小牧市健康生きがい支え合い推進部支え合い協働推進課市民協働係 電話番号(0568)76-1629(直通) ファックス番号(0568)75-8283				

## 会 議 内 容

### 1 開会

### 2 議題

(1) 令和3度小牧市市民活動助成金・地域に還元チャレンジ助成金実績報告会について

※資料に基づき事務局より説明

(戸成委員)

実績報告を見ても効果がどうだったのかよくわからないものがある。

(事務局)

報告書のやりとりの中で、もうちょっと詳しく書いてくださいと働きかけはしたが、なかなかこれ以上の内容が出てこなかった。

(秦野委員長)

決算は合っているということでしょうか。

(事務局)

最終的に提出されたものについては、チェックしてやりとりした結果です。

(秦野委員長)

ほかにご意見ありますか。

報告書を見ても、なかなか効果がどうだったかということまで見えてこない。課題が解決したかどうか、報告会で質問していただいてもよいと思う。

(西村委員)

助成金の5万円について、連続して今年度も5万円を支給してもらうことは可能か。また、増額してほしいなどの要望は何かあったか。助成しているものの総事業費が5万円より高いものもあるが。

(秦野委員長)

部門が3つあって、部門に応じて助成金の額も決まっており、一つの部門につき3回まで支給することができるので、ステップアップするに従って、何回も連続してもらうことはできる。

(事務局)

先日、提案発表に出られる方への説明会を行ったところ、例えばつなげる部門は助成率が1回目は80%、2回目は70%といったようにどうして1回目と2回目の間に差がついてあるのかといった質問や、活動をやっているのに、同じ一律の助成金が欲しいといった要望を受けた。

それに対し、我々の目的として、団体が自分たちで活動していただいて、活動規模を大きくしていただきながら、団体自体も育っていただきたいというのがありますのでこのような回数、割合にしているという説明をさせていただいた。

(秦野委員長)

他に何か質問等はあるか。

(事務局)

追加で説明させていただきます。尾張すずなり会の活動の中で、今回清掃活動をや

られるとのことで、担い手づくりも含めてイベントの参加者にイベント前に大山川上流の清掃活動をしていただくといった内容のものがあつたが、2月27日のイベントのアウトリーチで現地に行ってきた、話を伺ったところ、広域に募集をかけているわけではなかったもので、今後その辺りをどうしていくのかは気になるころではある。

また、会員が一人減って6人から5人になったので、今後の担い手のことも含めて頭打ちになるのではという心配があつた。

(秦野委員長)

高齢の会員が多く、その影響で、清掃活動や放置竹林の整備の活動が難しくなっているという実態がある。

そういった中で助成金をどうやって出していくのかということになる。

また、助成金は会員が増えることや組織が強くなることを目的にしているが、会員が減っていきなりしている。

(三島副委員長)

情報発信力の強化ということで頑張ってくださいねということで送り出していったが、実際はあまり進んでいないという状況である。

(秦野委員長)

多くの人たちが参加してくるという状況であれば、会員が増えるという状況になる。

助成金を出す側としては、告知活動を団体の責任の中ではなくて、告知がちゃんとされるようにサポートをどれだけできるかという使命がこの助成金の中にはあるのではないかと思う。

こちら側からのサポートの在り方も含めて課題と考える。

(三島副委員長)

情報発信のやり方も発信のやり方だけでなく、情報発信してどのような人とつながり、どのように一緒にやっていくかということにおいてサポートが必要だと思う。

(秦野委員長)

市民活動をやっている方は一旦集まると同じメンバーでずっとやっていて、年数が経った団体ほど非常に継続や発信が難しく、一旦できてしまった団体に他の人が入ってくるのが難しいというのが今までの常である。

そういったところの支え方もどうあるべきか考えなければならないと思う。

(西村委員)

地域に還元チャレンジ助成金について、継続する団体と継続しない団体があるのか。

(事務局)

地域に還元チャレンジ助成金における令和4年度の団体の2回目、最後の申請というのがあるかという質問についてだが、例えば一般社団法人勇者アカデミーは2回目の申請であるので、令和3年度に引き続いて令和4年度も申請してやっていくことになって、この助成金を卒業したこまき視覚障がい者の会のようにひろげる部門に行くという形で再度チャレンジする団体もあり、事情によってそのまま終了する団体もある。

ひょっとしたら一応チャレンジしてやってみて、なかなかうまくいかなかったとい

う団体もあれば、補助金に頼らずに自分たちでやれる体力が見込まれてきたというところもあるかと思う。

(事務局)

こちらの方で相談を受けていて、前年度はコロナの関係で事業計画を変更せざるを得なかったところがあって、例えばシニア低山登ろう会については1年間態勢を立て直してから次の年にチャレンジしたいと言っており、Bell belly についてはリーフレットを作成して会の活動を広げることをしており、会の規模からいっても1回目だけで十分啓発ができたということである。しきの会についてもコロナで事業変更が必要だったということで1年態勢を立て直したいということで話を聞いており、前年度は皆さんが大変だった様子なのでそれが大きいのではないかと相談を受けて感じた。

(西村委員)

1回目の助成金を受けてみて、2回目の申請手続きのハードルが高かったり、手続きが面倒くさかったりして申請しなかったということはなかったか。

(事務局)

助成金を取ってしまうと、どんな状況でも活動しないといけないというところがあるので、その辺りが年度末に予定がスライドしてしまうと忙しかったりしてしまうというところはある。

(秦野委員長)

引き続きチャレンジしないのかということも報告会で質問してもよいと思う。

(伊藤委員)

促進委員会の提言を出しているが、それに従って団体が活動したのかということ報告書に書くところはないが、確認することはできるのか。

(秦野委員長)

確かに報告書の中に提言に対してやったことは何かあるかという設問がないので、このことについての質問をしていただけるとありがたい。

また、これについて様式の中に質問をしている項目はないか。

(事務局)

今の様式ではないので、様式に書けるように検討する。

(星野委員)

基本的に活動に対する助成だと聞いているが、団体助成の添付資料と決算書は、その団体の収支全部なのか。

例えば、決算額の一の位の数字が1というのが気になるが。

(事務局)

助成金は大きく三つに分かれていて、地域に還元チャレンジ助成金と市民活動助成金のひろげる部門については団体の活動全体を見てということになるが、提出していただいている様式については対象事業等の関わりという観点から見ている。

ただ、団体によってまちまちな部分があるので、そのところについては整理しないといけないと思っている。

つなげる事業については基本的に対象の事業を助成するという観点から考えているので、助成金を使って事業を援助することになり、場合によってはそこに助成金以外

の収入を入れるとなると、丸い数字が出てこないこともあるかと思う。

特に地域に還元チャレンジ助成金と市民活動助成金のひろげる部門については団体の全般的な部分を補える助成金だと考えている。

(秦野委員長)

団体助成であっても事業の切り分けでこういったところに事業の全体の一部といった形で応募してくる場合もあるということか。

(事務局)

我々としてもあくまで市民活動助成金のひろげる部門と地域に還元チャレンジ助成金は団体の初期的な立ち上がりの支援ということで考えているので、その規模で考えると全体を見るのがふさわしいと思っている。

また、長く活動していたり、規模があったとしても立ち上がりから5年以内は初期的な支援をしたいと考えているので、そういったところについては団体の規模を見ながら考えていければと思っている。

(星野委員)

むしろ少しくらいあいまいなほうが団体育成にはよいこともある。何かをやりながら団体の足腰を鍛えていってほしいという思いがこの助成金にはあるので、そこに関しては厳しく考えすぎない方がいいと思う。

(事務局)

助成金の精査というよりは、団体の活動などについてのアドバイスなどで市民団体を見ていきたいと思う。

また、補足として、申請の際に設立して1年未満以外の団体については前年度の決算報告をつけていただいている。それが団体の前年度の全体の活動となり、収支予算書が申請する事業の部分の収入と支出が書かれているので、今回の実績報告の決算も全体ではなく、補助金を充てた事業の支出があって、収入は助成金とその他の自分たちの会費などを入れるので、助成金を引いた額が何で補填されたかということや何の収入源で使ったのかということを入りに入れていただいていると考えており、これは全体的な額ではないと見ている。

(三島副委員長)

様式の収支決算書には団体名を入れることになっているが、団体全体の収支決算ではないということか。

(事務局)

助成金を使ったものの収支報告の様式となっている。

(三島副委員長)

団体の識別のために団体名を書いているということですね。

(秦野委員長)

団体助成という言葉自体が非常に難しい切り分けで、年会費で正会員と賛助会員に分ける形での収支決算書が本当に必要なのかというところがある。様式の決算書には分かりやすさが必要かもしれない。

(三島副委員長)

自己資金と助成金という大きな分けでよいのではないか。

(事務局)

細かい内訳はなしにしてしまうというのがよいか。

(秦野委員長)

備考のところに書いてもらおうというのがいいかもしれない。この団体全ての収支決算書を付けないといけないようにも思えるので、次の年度からきちんと伝えられるようにしてもらいたい。

(西村委員)

5万円与えられてどれだけ執行したかをはっきりさせた方がいいと思う。

(伊藤委員)

会全体で事業にどれだけの規模のお金をかけているのかということを見ないといけない。助成金を出すと5万円の使い道の詳細が書いてあるわけだが、会費でも年会費という形で書く人もいるし、会全体の収入という形で対応する人もいる。

(西村委員)

助成金、会費、繰越金について、決算での記入の仕方で迷われたんだと思う。

(伊藤委員)

内訳についてきちんと定義しておかないといけないと思う。

(秦野委員長)

来年度の応募要項を作る際にもう少し分かりやすくした方がいいと思う。

### 3 その他

※5月21日(土)の実績発表報告会・企画提案発表会、審査会の日程について事務局より説明

以上